

熱をともなう子どものけいれんについて

今回は熱を出した子どもがけいれんを起こした時の対処方法をご紹介します。子どもがけいれんを起こしてしまっても、冷静に行動ができるように参考にしてください。



けいれんとは、手足や体全体の筋肉が自分の意志に関わらず、収縮して緊張してしまう状態です。

『けいれんの主な症状』

- ・手足を突っ張らせたような状態
- ・がくがくと伸ばしたり曲げたりを速い速度で繰り返す
- ・白目をむく
- ・意識を失う
- ・泡をふく
- ・呼吸が止まる（顔色が悪くなる(チアノーゼ)）



『熱がある子どものけいれんと原因』

熱性けいれん	子どものけいれんの原因として最も多いものです。6か月から5～6歳までの子どもに生じ、熱が出てから通常24時間以内に全身性の2～3分のけいれんが起こります。38度以上の発熱で起こる場合が多いです。
髄膜炎、脳炎	頭の中に細菌やウィルスが入って炎症を起こす病気です。熱が何日も続いた後に起こる場合も多いです。症状は、けいれん以外にも「ぐったりしている」「意識がもうろうとしており全身状態が悪い」など体全体に現れることが多いです。
急性脳症	ウィルス性の感染で発症することが多く、脳に急激なむくみが生じる病気です。けいれんや意識障害を起こすことが多く、後遺症が残ってしまう可能性があるため早い段階での治療が必要です。

『子どもがけいれんをおこしたときの対処方法』

方法	理由
①安全な場所に移動する。	浴室内でけいれんした場合はおぼれる危険性があるため、浴室から出す。
②平坦な場所に横向きに寝かせる。	けいれんによって、吐いた物やだ液が気道に入らないように体勢は横向きにします。
③衣服をゆるめる。	けいれん中は呼吸がしにくいのでボタンやベルトなどをゆるめて呼吸がしやすいように調節します。
!!!重要!!! ④けいれんが何分続いているか計測する。	通常、けいれんは5分以内に治まることが多いが、 5分 経っても治まらなければ、救急車を呼ぶ必要があります。

『子どもの様子を観察して医師に伝えましょう。』



子どもの様子	観察するポイント
①けいれんはどのように起こっていますか？	全身か？体の一部か？ 左右対称か？対称でないか？
②意識の状態はどうですか？	意識ははっきりしない、ほとんどない、 けいれんが治まってもぐったりしているなど

『けいれんが起きている時にやってはいけないこと。』

①指やお箸、タオルを口の中に入れる。	口の中を傷つけたり、呼吸をしづらくさせたりしてしまうのでしてはいけません。
②大声で名前を呼ぶ。	強い刺激を与えるとかえってけいれんを長引かせることになってしまいます。
③強く抱きしめる。	

『休日、夜間にけいれんが起こったとき誰かに相談したい場合』

小児救急電話相談（#8000）で相談できます。お住まいの都道府県の相談窓口つながら、小児科医師・看護師からアドバイスを受けることができます。

『けいれんを予防する薬について』

熱性けいれんの場合、自宅で使うことができるけいれんを起こりにくくする薬としてダイアップ坐剤[®]があります。しかし、2015年に熱性けいれんガイドラインが改定され短時間のけいれんであれば基本的に重症化の心配はないため、けいれんを何度か繰り返した場合でも予防投与はしなくてもよいと変更され、使用基準が厳しくなりました。

